03

基本構想

与謝野町が目指す未来像 まちづくりの基本理念 人口の見通し 分野別方針

与謝野町が目指す未来像



わたしたち住民の宝。それは豊かな自然と歴史によって育まれた伝統と文化、そして 何よりもそれらを誇りに思い現代に残してきた住民一人ひとりです。

そして、本町に縁のある人、本町に関心のある人に支えられながら、知恵と技術、努 力によってこれらの宝を守り、活かし、そして磨いてきました。

人口減少、少子高齢化といったこれまで日本が経験したことのない社会環境の変化や、 コロナ禍が続く時代においても、先人のたゆまぬ努力によって300年を超える歴史を 刻んできた丹後ちりめんのように、時代とともに変化する社会に対応しながら、いつま でもキラリと輝き元気あふれる住みよいまちであってほしいと願います。

そのためには、わたしたち住民が、まちの未来を描き、その未来を実現するために行 動することが大切です。

「水・緑・空 笑顔かがやく ふれあいのまち」。わたしたちは、美しい水と緑、澄 んだ空に代表される「自然」との調和を大切にしながら、一人ひとりの笑顔がかがやく、 ふれあい豊かなまちを目指してきましたが、これからはこれを継承し、かつ新たにわた したち住民の宝である「伝統」と「人」を加え「人・自然・伝統 与謝野で織りなす 新 たな未来」を本町が目指す未来像として掲げます。

これには、経糸と緯糸が交わって風合い豊かな丹後ちりめんが織りなされていくよう に、自然と伝統が交わりながら、まちの主人公であるわたしたち住民一人ひとりが「人 財*|となり本町の新たな未来を創るという意味が込められています。

まちづくりの基本理念

本町が目指す未来像を実現するため、まちづくりの理念として、次の3つの「み」を 掲げます。

みんな

幸せを願い、豊かさを求め、より良い暮らしを望み、子どもたち、孫たち、そしてまだ見ぬ未来の世代につなぎたいという想いがまちづくりの原動力になります。 本町に暮らす「みんな」の手でまちづくりを進めていきます(共創)。

みらい

自分自身の描いた未来を一つひとつ実現していくことは、未来に向かう一人ひとりの営みでもあり、未来のまちをかたちづくることでもあります。今を生きるわたしたちが未来を創造し、将来世代のためにも未来志向のまちづくりを進めていきます。

みえる

まちづくりの主人公であるわたしたち住民が描いたまちをそれぞれの立場で、またお互いに協力しながら実現していくために、ヒト・モノ・カネ・情報などのまちの資源や動きをみえる化し、まちを創造することが大切となります。そんな「みんな」にとっての「みえる」まちづくりを進めていきます。

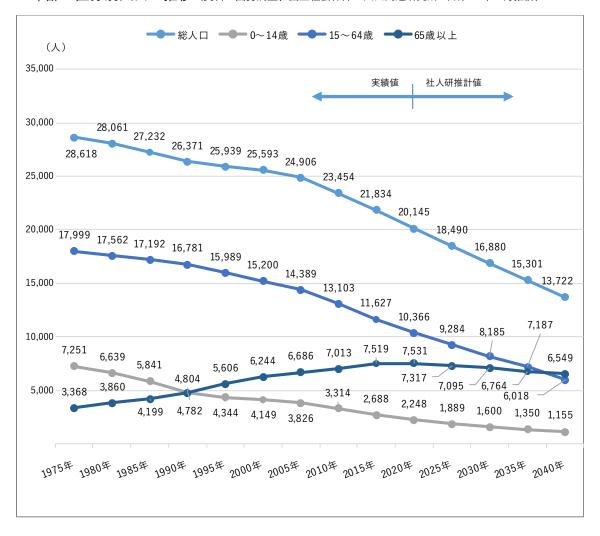
人口の見通し

本町の人口は、第2次世界大戦後から第2次ベビーブーム(昭和46年(1971)〜昭和49年(1974))が終わるまで人口が微増で推移し、その後、人口減少が始まりました。人口減少の要因は、死亡者数が出生者数を上回る自然減と、転出者数が転入者数を上回る社会減によるもので、出生数については合計特殊出生率(ベイズ推定値)の低下に加え、生涯未婚率の上昇が背景にあります。また、転出については大学・短大などへの進学や就職に伴う若年層の転出が多いことが背景となっています。

年齢3区分別人口では、年少人口(0~14歳)と生産年齢人口(15~64歳)ともに減少が続く一方で、高齢者人口(65歳以上)は増加を続けてきましたが、平成27年(2015)をピークに減少に転じ、今後も減少が続くと考えられます。

社人研による本町の人口推計(平成25年3月推計)を見ると、令和7年(2025)には2万人を切り、令和22年(2040)には15,000人程度になると予測されていますが、人口減少下においても持続可能なまちをつくるため、合計特殊出生率や社会増減がある程度改善したシナリオで推計した結果をもとに、令和42年(2060)以降に「16,000人」前後で人口が落ち着く「おおむね維持」を本町の長期的目標として掲げます。

■年齢3区分別人口の推移(資料:国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月推計)



分野別方針

本町が目指す未来像を実現するため、分野毎に基本的な考えや方針を示します。

<u>分野1|産業・仕事|一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち</u>

「もっと働く場の確保を!」。これは、このまちに暮らす人々の強い想いです。

「安心できる暮らしのためにも仕事をして収入を得る」「安定した収入を得られる仕事があれば、自然と人は集まってくる」「人が集まり、知恵を出し合い、ときには切磋琢磨しあえば、地域経済は活性化し、地域は元気になる」「元気な地域からはチャレンジを生み出すエネルギーが生まれ、それがまた新たな働く場を生む」。こういった好循環をあらゆる産業分野に生み出していくことが求められています。

地域の暮らしを支えてきた織物業や、安心安全で豊かな食を支えてきた農業をはじめとするこのまちの産業は、先人たちの挑戦によって現代まで受け継がれてきました。そして今、若き担い手たちは、先人たちが培ってきた知恵と技に最先端の技術を融合するなど、新たな挑戦を始めています。また、労働力人口の減少と担い手の高齢化が進む中、急激に進化する人工知能の登場により、働く環境は大きく変化することが予想されています。だからこそ、「変化すること」「挑戦すること」「応援すること」が大切です。

時代に合わせて「変化すること」、培ってきた知恵・技・資源を最大限に活用し互いに共創しながら変化に「挑戦すること」、そして、それをまちのみんなで「応援すること」で人財を育み、「一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち」を目指します。

分野2 | 観光・交流・移住定住 | 地元を誇りに想い人の流れを生むまち

四季折々の表情を見せる「大江山連峰」、黄金の稲穂が輝く「加悦谷平野」、鮭が遡上する「野田川」、日本三景を形成する「阿蘇海」などの豊かな自然、300年を超える歴史のある「丹後ちりめん」、ツヤツヤと輝く美味しい「お米」、そしてそれらを生み出す「人」。このまちで暮らす人々が本町ならではの魅力を認識し、地域を愛し、誇りに想うことによって、「訪れたい」「住んでみたい」まちとして、「人の流れ」が生み出され、本町を離れた人も故郷を想うことにつながります。

人の流れは来訪者と住民との交流を増やし、「ようきなったなあ」というおもてなしに、きっと訪れた人も嬉しく、楽しくなります。そして、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんが与謝野町生まれである、与謝野町のお米を食べている、着物に興味がある、訪れたことがある、泊まったことがある、遊んだことがある、そんな人たちとの「つながりの輪」を広げていくことが大切です。

このまちや暮らす人々に関心を寄せる関係人口**を世界中に多く生み出し、移住者や U I ターン*者が増え、まちがにぎやかで活気あふれるよう、「地元を誇りに想い人の流 れを生むまち」を目指します。

分野3|健康・福祉|みんなが自分らしく幸せに生きるまち

健康に長生きしたいという願望はいつの時代もわたしたちのライフスタイルの中心 になるものです。「このまちで暮らしながら、自分らしく一生を終えたい」「地域で助け 合い、絆を深めたい」と多くの人が望んでいます。

自分の思い描くように、自分らしく生きるためには、まずは「一人ひとりの心と体の 健康」が大切です。

しかしながら、核家族や単身世帯の増加、価値観の変化、コロナ禍などの影響を受け、 人や地域とのつながりが希薄になっており、多様化する心の悩みや不安を和らげる「地 域の力を活かした心のよりどころ(人や居場所)」が求められています。

心と体が健康であれば、個人の生活の質を維持・向上できるだけでなく、人を思いや る余裕がもて、多様性を受け入れること・人とつながること・誰かを助けることもでき、 まちの元気にもつながります。

まずは一人ひとりが心身ともに健康になり、地域とつながることで、「みんなが自分 らしく幸せに生きるまち」を目指します。

<u>分野4|子ども・子育て|つながりで笑顔を未来につむぐまち</u>

澄んだ空気、たくさんの生き物が暮らす川や田んぼ、四季を彩る山々。このまちには、 子どもたちが自然や生き物とのふれあいを通して、豊かな感情を育みながら、のびのび と育つ環境があります。そして、気持ちのいいあいさつが行き交い、子どもたちを見守 る温かい人たちがいます。そのような環境で育つ子どもたちの笑顔は、まちの宝です。 このまちに暮らす人々の強い想い。それは、あふれる笑顔を家族や地域、さらにはま ち全体に広げ、子どもたち、そして未来の世代へとつないでいくことです。

まちの宝である子どもたちを大切に育て、 笑顔をつないでいくために、 世代を超えた つながりを大切にし、家族・地域・社会・行政が手を携え、互いに頼ること、頼られる ことのできる関係を築くとともに、安心して結婚・出産・子育てできる環境、子どもた ちが心も体も健やかに成長できる環境の構築が必要です。

将来、みんなに愛されながら育った子どもたちが、このまちで結婚・出産・子育てを して未来の世代へ笑顔をつないでいきたいと思える「つながりで笑顔を未来につむぐま ち」を目指します。

分野 5 | 教育・スポーツ・文化 | 魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち

このまちには、ものづくりと人づくりの歴史によって育まれた、地域を愛し、地域に 貢献するという精神が息づいています。また、困難な課題に立ち向かい、挑戦する人々 の背中を見ることができる恵まれた環境があります。

今も昔も、まちづくりの原点は人づくりです。先人の意志を引き継ぎ、一人ひとりの人権を尊重し、多様な個性に光をあててきた学校教育を、より地域に開かれたものにしていかなければなりません。さらに、青少年の健全な育成、生涯学習と生涯スポーツの充実、誇りある歴史や文化の継承を通じて、人間的な感性や慈しみの精神、主体的に課題を解決し未来を拓くことができる人財に必要な基礎を培う、魅力ある教育を推進していかなければなりません。

自ら学び続ける力と故郷を想い続ける心を併せ持ち、「学んだことを社会に活かす」「仕事がないなら創りだす」という意欲あふれる人財や、活躍の場が世界のどこであったとしても、故郷への想いによって、いつまでも故郷とのつながりを大切にできる人財を育成し、「魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち」を目指します。

分野6 | 環境・暮らし | 美しくて住みやすい安心安全なまち

このまちに暮らす人々にとって、一番の誇りは、大江山連峰から野田川を経て阿蘇海 へと続く、美しく豊かな自然です。

このまちならではの風景を作り出し、人々の生活や産業の基盤となる豊かな自然環境を未来の世代につないでいかなければなりません。そのためには、身近な暮らしから、地球にやさしい環境づくりへとつながる行動をしていく必要があります。

また、道路、水道などの生活基盤や森林が維持・整備され、空き家も有効に活用されるなど、誰にとっても快適で暮らしやすいまちであることが求められています。さらに、近年増加している自然災害への対応や犯罪被害への対応などにも取り組み、「美しくて住みやすい安心安全なまち」を目指します。

分野7 | 地域協働・行財政運営 | 住民が主人公となるまち

実り豊かで美しい自然と、先人から受け継がれてきた伝統は、後世に残していきたい 宝です。それらを育み、伝えてきた一人ひとりも大切な宝です。幸せや豊かさ、より良 い暮らしを望む想いと、多くの宝に恵まれた故郷への誇りは、まちづくりの原動力とな ります。

今後ますます進む人口減少や少子高齢化は、人と人とのつながりを希薄なものにし、 地域を支える人財の不足や公共サービスの縮小などをもたらす可能性があり、多くの宝 が失われることが懸念されます。

そんな社会にあっても、多くの宝を後世に残し誰もが安心して暮らせるまちであるた めに、世代や地域を超えた人とのつながりを持ち、このまちに暮らす人々がいきいきと 輝くことが重要となります。そして、一人ひとりがまちづくりへの当事者意識と豊かな 創造力、郷土愛を持ち合わせ、自らの地域は自ら治める地域力の高いまちを創り上げて いくことが大切です。

個人と個人が共感し合い、地域と地域がつながり、住民と行政が力を合わせるなど、 多様な主体が連携・協働し、「住民が主人公となるまち」を目指します。